



THE INTERNATIONAL SCHOOL

The only total immersion Japanese program in Portland

インターナショナルスクール(TIS)便り

今回は、イマージョンプログラムとは何か、そしてインターナショナルスクールではどのように授業が行われているかをお伝えしたいと思います。

イマージョン教育とは、1965年、カナダのケベック州で母国語が英語の子供たちにフランス語を教える手段として実践したのが始まりと言われています。イマージョンは、英語の“immerse(没す)”からきており、言葉の意味どおり、学習者は、習得を目的とする外国語に浸ることになります。イマージョン教育では、外国語を媒体として一般教科を学習し、同時にその言語の習得と文化の理解を目的としています。

外国語を使用する頻度によって、トータル(全体)イマージョンとパーシャル(部分)イマージョンという二つの形態に分かれます。トータルの場合、プログラムの初期段階は、ほとんどの教科が外国語で行われます。学年が上がるにしたがって、母国語による授業が増えてきます。パーシャルは、プログラム開始時から、カリキュラム全体を、外国語で行う科目と母国語で行う科目に分けて指導します。50%ずつにするのが一般的です。

ポートランドのインターナショナルスクールは、全米で日本語のトータルイマージョン教育を実践している数少ない学校の一つです。算数、国語、理科、社会などの主要教科は全て日本語で、音楽、体育、図工の副教科は英語で授業が行われます。英語の授業は1年生から始まります。3才から幼稚園までは、副教科以外の時間全てを、まさに日本語に浸ってすごすこととなります。

日本人の親を持つ子供もいれば、日本語に全く触れたことのない子供まで、バックグラウンドはさまざまです。先生は日本人、流れてくる歌も日本語、教室にはあってあるのはひらがなのポスターと、全く見慣れない、聞き慣れない環境に、登校初日からどっぷりと浸ることになります。自分のしたいこと、ほしいものを伝える

のに、子供たちは最初は英語を使います。それでも先生が日本語で返事をし、必要なことばを少しずつ教えていくことにより、だんだん日本語を理解するようになり、日本語を使うようになってくるのです。最初は「先生」という呼びかけも英語でしかできなかった子供たちでも、学校がはじまってしばらくすると、きちんと「先生」と話しかけてくれるようになります。あいさつや身の回りのことば、学校生活に必要なことばを、歌やアクティビティなどの毎日の積み重ねによって、自然に身につけていきます。

日本語の習得自体が目標ではなく、日本語を媒体として一般主要教科を学ぶことが、トータルイマージョンの教育です。したがって、1年生から日本の教科書や他のさまざまな資料も取り入れながら、オレゴン州のカリキュラムにも合わせた授業を行います。たとえば、国語の授業では「大きなかぶ」を読んで漢字を学び、算数の「長さ」の単元ではインチもセンチメートルも勉強します。日本の文化や歴史にも触れるかたわら、オレゴントレイルなどの歴史や、分子や原子といった、日本では中学生で習うような理科の単元も日本語で勉強します。生徒はノートを取ったり、研究発表を行ったりと積極的に授業に参加しています。

さて、今回は、生徒の一日の様子や授業の内容などを、もう少し具体的に紹介したいと思います。

インターナショナルスクール

1995年設立。日本語、スペイン語、中国語のPreKから5年生までのトータルイマージョン学校。

住所：025 SW Sherman Street Portland, Oregon 97201-5120

電話番号：503-226-2496

日本語ご希望の方は、内線305まで。このコラムに対するご質問、ご感想は、Japanese@intlschool.org (日本語可能)までお願いします。